

予算決算委員会総務文教分科会会議記録
(補正予算審査)

1. 日 時	令和7年6月4日(水) 9時30分開議 令和7年6月4日(水) 10時30分散会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	原田豊彦座長、安井博幸副座長、本多紀元委員、前田えり子委員、野々村康委員、向井千尋委員、上田英樹議長
4. 欠席議員	なし
9. 会議に付した事件	・議案第48号 令和7年度丹波篠山市一般会計補正予算(第2号)
<p>原田座長 開議宣告 9:30 開議</p> <p style="text-align: center;">日程第1 議案第48号 令和7年度丹波篠山市一般会計補正予算(第2号)</p> <p>学校教育部</p> <p>■学校教育課 学校教育部 挨拶 学校教育部より説明</p> <p>【主な質疑】</p> <p>安井副座長 消耗品費が14万計上されていますが、具体的にはどのような消耗品を購入されるのか。</p> <p>学校教育部 消耗品費として、運動器具の購入を考えております。鉄棒補助用具、水泳、器具、プールボール等を考えております。 その他、手作りで教材をつくっていくということですので、その材料費もここに充てております。</p> <p>安井副座長 手作りで教材をつくるっていうのは、それは教師の方の負担になるかと思いますが、その辺りはどのような仕組みになっているんですか。</p> <p>学校教育部 教師の負担になるという質問ですが、子どもたちの体力アップ、一人一人に合わせた教材を作っていくことでより効果を上げるために、</p>	

そこは負担というよりも、その効果を狙ったものと考えております。

安井副座長

具体的なイメージができませんが、教えてもらえますか。

学校教育部

例えば、今まだ事業が始まっていないところですので、これからこの個別の子どもたちの課題に合わせて作っていくことになるかと思えます。例えばこれまででしたら、高跳びの練習に、小学生の子どもたちにゴムひもを使って、子どもたちがすぐに上げ下げできたりとか、飛び越えても痛くないような教具をつくったりもします。そんなふうに子どもたちの難易度を下げて、飛びやすくするとかといったような教材を、これまでつくっております。

向井副議長

この、体力アップモデル事業の概要と具体的にどのようなスケジュール管理をされるのかということをお願いします。

学校教育部

7月1日から委託が始まります。子どもたちの体力の課題に合った教材に取組、動きの習得、技能の向上を図って、結果、体力の向上につながるという県の事業になります。

研究成果を県内の学校に広く共有していくことで成果をより広めていくという事業になります。

ここから2月まで、9月10月11月に講師に来ていただいて、それぞれの講師から指導を頂きながら、2月に完了予定の事業になります。

向井副議長

このモデル事業は市内では初めてということですか。城東小学校は、そもそも、私の子供も通っていて、こういう個別の体育の授業とかに力入れていたと思います。このモデル事業については、全く初めての試みということではよかった。

学校教育部

名称が変更になっておりますが、体力アップの事業というのは、県内各校持ち回りで行っております。篠山では、今回久しぶりに行っているものです。

平成29年から令和元年まで、城東小学校では3年間、体育科で校内研究をした実績があります。

また、令和5年からは、体育科で専科教員において、専門的に指導するということにも努めています。その結果もあって今回城東小学校に決まったというような形です。

前田委員 体育の専科の先生いらっしゃるということで、城東小学校だけでしょうか。

学校教育部 今把握しておりますのは味間小学校、城東小学校の2校になります。

前田委員 体育は味間小学校と城東小学校があるところですが、ほかの専科の先生ってというのは、どんな状況になっていますか。

学校教育部 各校の規模、学校に専門的な教員がいるかといったところで状況は変わるのですが、城東小学校には体育を専門としていた教員がいますので、令和5年から専科教員になったというところがあります。
今、八上小学校が教科担任制をしていますので、全学年体育ということではないのですが、去年は体育専科っていうものを、3年・4年・5年・6年生で置いていました。
今年は、4・5・6年の教科担任ということなので、それぞれ体育は担任が行うという形になっています。

野々村委員 講師のことですが、謝礼の公費については、今の小学校におられる専科の体育の教師が講師に着任されるというように、考えてよろしいでしょうか。
講師の身分とか、その辺の資格とかお持ちの方なのかということを確認させてください。

学校教育部 大学の教員というふうに聞いています。
学校の職員は、職員として、大学の教員を外部から講師に招いて指導を仰ぐということです。

野々村委員 分かりました。講師さんは大学から派遣ですね。
大学から派遣されると、派遣される講師の裁量というのか、いろんな資格とかノウハウをお持ちかどうかというのは、兵庫県のほうで、もうその講師をリストアップされた中から選ぶのか、又は、市は委託を受けて、市のほうで講師を選ばれるのか、講師選定の状況、選定の方法について教えてください。

学校教育部	講師の選定については、各学校でお任せをしております。 学校の職員と学校長のほうで 1 番適任だと思われる大学の先生を 大学に依頼をしているという状況です。
野々村委員	講師に適任かどうかについて、大学の教授が推薦 された学生なんですか。 大学の教授がそのままこちらにお越しになりますか。
学校教育部	大学の教授がそのまま講師として来られます。
野々村委員	はい。理解いたしました。
上田議長	県の補助金 20 万取られて事業実施されることはありがたいと思 います。 今回モデル事業で城東小学校されるという内容ですけど、教育委 員会として城東小学校を中心的に今回進められると思いますが、こ の効果を市内小学校にどう教育委員会として広げて普及されていく のか。そのあとの効果についても教えてください。
学校教育部	今回、県の事業のほうでも成果を広く情報共有するっていうふう な形になっています。 それは県下だけではなくて市内の学校にも、呼びかけながら、市 内学校にもその成果を発表する予定でいます。
上田議長	その方法も含めて教えていただきたいと思います。
学校教育部	今、その方法については学校で計画をしております。 これまでの形でしたら研究発表会という形もありますが紙面での発 表ということも考えられます。

日程第 1 議案第 48 号 令和 7 年度丹波篠山市一般会計補正予算（第 2 号）

企画総務部

■創造都市課

企画総務部 挨拶

企画総務部より説明

【主な質疑】

野々村委員 公共交通対策事業について、国の採択を受けて補助金を確保していただき、一般財源や起債を減額していただいたことについては、その御努力に敬意を払いたいと思います。
その中で車両の購入について、この購入車両の保険料や燃料費等の計上はどこにあるのでしょうか。

企画総務部 保険と燃料費の件ですけれども、こちらにつきましてはA社のほうに運行委託をいたしますので、それ中での経費という形で、組み込まれるというところになります。

野々村委員 運転士の確保等について当初予算のときに公共交通を、担う中、乗務員不足も深刻な課題であることからというようなことで、説明書に記載されているんですがその辺の運転主とか乗務員の確保は、当初予算で困難であったけども確保はできていると理解してよろしいでしょうか。

企画総務部 運転士さんの確保については当初心配しておりましたが、A社さん並びにB社さんにつきましても、4月以降、採用も幾らかあったということを知っておりまして、その分については今後の運行には支障ないということで確認しています。

野々村委員 車両購入になりますので車両にPRのための、そのマッピングって言ったらお金かかるんですけども、公共交通交して丹波篠山市がやっているよというようなPRを車体に表示というものはあるのでしょうか。そういうものはこの購入費の中に含まれているのでしょうか。またそういうようなことを今後されるお考えはあるかどうか、説明をお願いいたします。

企画総務部 ラッピングのことにつきましては現在東部地域で走っております、車両2台につきまして、途中から名称変更を行い「のり一な」ということでさせて頂きました。

それと同様ですね、ラッピングをこの車両にも施しまして、運行したいというふうに考えております。その費用については、この車両購入

費の中に一括で含んで計上しております。

野村委員

せっかく購入していただいて、お披露目をしていくわけですから、市民の皆様が使いやすいようなマッピングというのか、印象深いようなデザインにしてください、利用者が増えることを望むところでございます。

それとこの車両を購入されても、A社に委託されますのでその車両の保管場所は委託先が確保されると理解してよろしいでしょうか。

企画総務部

保管場所につきましてはA社の篠山営業所内で保管されるということになります。

野村委員

理解しましたありがとうございます。

安井副座長

この車両の1160万円というのは2台分の値段ですね。

企画総務部

2台分になります。1台当たりが580万という形になりますのでその予算となっております。

安井副座長

今までの東部での運行実績を踏まえて8人乗りから6人乗りされたというふうな、非常にいいことかなと思います。ただ西部のほうで、例えば、乗車率が東部よりもよくなった場合は、やっぱり東と西入れ替えるとかやっぱりその辺は、弾力的な運行をしていただいたらいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

企画総務部

安井議員おっしゃるとおりですね。乗車定員といいますか、ハイエースのほうは8人ということになりましてセレナは6人になります。今、東部のほうでハイエースが2台走っておりますが西部のほうでも今後導入際には車両を入れ替えたりというふうな形での運行を考えていきたいというふうに考えております。

向井副議長

現在東部での実績、乗車率、4月では1日平均11人とか聞いたんですけども、現在の実績と課題、それを西部に、移行するに当たっての、どういうふうに考えているのか今後の計画をお聞かせください。

まず東部の実績になりますが、こちらのほうにつきましては、11月から運行いたしまして、現在、運行としましては5月までの7か月間ということになっております。

利用登録者数については、5月の末現在で500人を超えてきたような状況になっています。

予約の方法としましては、LINE、電話というところですが、やはり電話予約が1番多い状況でございます。

ただ5月に入りましてですね、LINE予約が一気に増えてきておりまして、このあたりについても、特に市のほうでも、LINEの登録促進をしておりますし、今後もですねLINEを使っただけのように、PRをしていきたいと考えております。

あと、乗客数については村雲、雲部、福住、日置、畑、城北というエリアでの運行としております。

やはり福住、日置の乗車がかなり多いという状況でありまして、そのあとのエリアについても、今後ですねもう少しPRをしていきたいというふうに考えております。

大体1日当たりの平均利用者数はこの3台で合計13人という形になっております。3台運行しておりますので1台当たりについては4.2人、という状況であります。

これもまだ目標の数値には達してないところもありますので、今後、さらにですね、PRを進めていきたいというふうに考えてます。特にですね、利用者数の中でも、1番多いのが80代の方が多いです。続きまして70代ということで、全体としましても、70代80代の方がかなりの数値を示しているという状況です。

乗降場所として1番多いのはフレッシュバザールが1番多い状況で、続きましてA社の篠山営業所ということで、篠山口駅線に乗換えていただいて、例えば岡本病院とかですね、あとはバザールタウンに行かれる方が多いということで、A社の営業所の乗降ランキングとしては、2番目という形になっております。続いて篠山医療センターとか、市役所というふうな形になります。

もう1点4月の後半から5月の半ばにかけて、利用者アンケートの方もさしていただきました。その中で、やはりこのデマンドバスについての満足度調査の結果、満足をしているという方が70%、やや満足をしているということが25%ということでしたので、合計95%の方が、利用されている方のアンケートですので、高いんです

けども、こんな形となっています。運賃についても、安い、ちょうど良いと答えていただいた方がほとんど占めておられて、高いと言われた方については約5%というふうな形になっています。

特にですね何か意見を聞かせていただきたいというところで多かったのがですね、やはり木曜日をですね、運行してない日ということでこちらについては医療機関のほうに休みということで、木曜日は運行していないんですけども、やはり木曜日にも運行していただきたいとか、あと8時から4時まで運行しておるんですが、例えば5時まで、運行していただきたいという形で、御意見をいただいております。

あと西部のほうにつきましてはこちらのほうのことも踏まえまして、10月の運行に目指してですね、今、バス事業者、タクシー事業者さんと特に運行するエリアをどこまで設定するかというところについて協議を進めているところです。

基本的には、買物ができる、バザールタウン、あるいはにしき記念病院とか、医療機関に直接行けるように、その辺のことを今後、交渉を進めておられて、このあたりが整った中で、6月中にはですね、各地域のほうにも説明に上がるというようなところも含めて今調整をしているところです。

本多委員

国庫補助金の総務費委託金は、ふるさとミライカレッジモデル実証事業委託金のところですけどこちらふるさと未来カレッジの取組について、連携する大学先と一緒にかもしれないんですけど委託先、あとどういった学生と連携される予定なのか教えてください。

企画総務部

事業内容につきましては地域振興課のほうですね。また後ほど御説明頂くと思いますので、簡単ではございますが説明させていただくことにいたします。

連携する大学としましては5大学ということできさせていただき予定にしております。

C大学、D大学、E大学、F大学、G大学ということで、参加学生については延べ250人の方が事業に関わられるということを聞いております。

委託先については、「株式会社H社」ということでこちらは東部の6地区の中で、今回ですね、村山さんのほうがコーディネーターとし

てお世話になるんですが、こちらの「株式会社H社」というところで委託をされるということですのでしております。こういう形で、今年度、事業を実施するというふうにしております。

上田議長

ふるさと丹波篠山に住もう帰ろうの中で、兵庫県移住支援事業として、御夫婦と子供1人の関係ですけど、この内容をちょっと教えていただきたい。

3点お願いします。

要件の中で、③で、いずれかに該当する就職また企業された方等々あるんですけど、これ過去の実績とかまでは令和7年度6月予算も含めて、どういう区分の方が多いのか。どういう傾向があるのかが1点。

もう1点が、この方たち、4件、過去3件、今回1件あるんですけど、Uターンが多いのか、Iターンが多いのかJターンが多いのか。その傾向を教えてください。

それともう1点。ポイントは、これ4分の3の県の補助金ですけども、大変うれしい、県のこういう施策ではあるが、過去から1件1件1件、今回1件、気になったんですけど、県の予算の中で、県は精査して割当てをしているのか。ある程度希望があれば、全て県の予算も確保しているのか。その辺の状況、教えてほしいと思います。

企画総務部

これまでの実績としましては就業形態が全てテレワークというふうな形になっています。

全て東京都から移住ということになっておりまして、それぞれ、会社でお勤めの方ばかりです。東京等での会社ですので、そちらのほうとですねテレワークで、仕事をしていくというふうな形でしているというところでは。

やはり丹波篠山市は縁があって、こういう自然のもとで子育てしたいというふうな方もおられまして、そういうところで選んで頂いたのかなということを思っております。

あと、U I Jターンというところですが、Iターンというところがほとんどです。

あと、県予算につきましては、4分の3ということで、こちらは県のほうも確保していただいているのですが、一応予算の範囲内ということでは聞いております。なかなか実績ベースとしては県のほうも、県全体で今どれぐらいほど支援金のほうが出ているというところは、ちょっと

押さえられてないところがあるのですが、県としましても、ある一定の予算は確保しているということは確認をしております。

上田議長 順序としては県のほうへ申請されて、そして県が、この方がおられますので、県の予算を1件確保しましたので残りの4分の1は、丹波篠山市で確保してください、そういう流れですね。

企画総務部 申請につきましては、丹波篠山市に申請という形ですけども、そこで県のほうにつきましてもその内容を報告して、それで、県予算としても確保されているというふうに、こちらは考えておるんですけども、申請については丹波篠山市のほうに一旦申請があるということです。

上田議長 大体、県のほうへ行かれて県から兵庫県ですんで、丹波篠山市に言われてくるのかなとちょっと思っていました。
そしたら、丹波篠山市に対して直接は毎年1件しかなかった。2件3件あった中で精査していったんじゃないし、大体1件というのが今までの数字の考えですか。

それとプラスアルファ、どのようなPRをされて、それは県がやっているのか市がやっているのか。その辺のちょっと申請の順序というか、今の状況を教えてください。

企画総務部 件数につきましては、各年度1件、丹波篠山市1件のみということになっています。

兵庫県移住支援事業ということで県のほうが、このような、チラシなり、ホームページで紹介をしています。

県下の中でも、神戸市、尼崎市、明石市、芦屋市、については、対象とならない移住先となっているんですけども、こういうところで見ただく中で、まず市のほうに申請を頂いて県のほうにもつないでいくという形になっています。

上田議長 2件以上申請がもしあった場合はそれで全て県のほうには一応、申請をすると、しかしながら、県の予算枠もあるので、これが1件しか丹波篠山市の枠がない場合は1件のみの採択になると。そういうような事業ということで理解してよろしいか。

企画総務部 県予算と市の予算という形での執行になりますので、県予算が打切りという形になった場合はそれに合わせた形でのこちら予算措置という形になっていくというふうに考えています。

安井副委員長 今回の県の移住の件ですけど、世帯で移住と書いてありますが、例えばシングルマザーの方なんかの場合はどういうふうに考えていますか。

企画総務部 それは世帯という形です。

日程第1 議案第48号 令和7年度丹波篠山市一般会計補正予算（第2号）

行政経営部

■財政課

行政経営部 挨拶
行政経営部より説明

【主な質疑】

野々村委員 先ほどの企画総務部にもお話をしましたが、国費の補助がとれて、一般財源や起債が減ったということで、非常に好ましいことだと思います。各部にそのような国からの補助があるようなメニューを積極的に活用するように、行政経営部の皆さんからも、いろいろなアドバイスをしていただければいいと思います。

今回の補正については、まず国費が採択されたというような非常に喜ばしいことだと感じております。

行政経営部 先ほど、野々村議員がおっしゃった、国費とか、起債など、特財の活用につきましては、予算の編成方針なり執行方針で、周知しております。

これからも積極的にそれを取っていけるように、職員の意識向上にも努めてまいりたいと思います。

■議員協議

議員間で議論・確認等をしておいた方がよいこと等があれば発言をお願いします。

— 部長、市長等への質問等なし —

■意向確認

日程第1 議案第48号 令和7年度丹波篠山市一般会計補正予算（第2号）

— 修正・反対等の意見なし —

原田座長 この結果と、本日の執行部との質疑応答及び議員共有を含めた形で、分科会の座長報告を行いたい。報告については座長に一任いただきたい。

— 異議なし —

原田座長 また会議録等については事務局に調整させ正副座長において内容確認を行いたい。

— 異議なし —